

2023年11月17日
全日本博物館学会 行事委員

全日本博物館学会 2023年度第1回行事
『触の祭典「ユニバーサル・ミュージアム さわる！めぐる物語」』見学会及び研究会：
「さわる展示」の先にあるもの 開催趣旨

ICOMによる博物館の新定義(2022年8月採択)には、“accessible and inclusive”, “diversity and sustainability”, “with the participation of communities”, “reflection”, “knowledge sharing”といった言葉が初めて明記された。また、日本国内においては、2022年4月の博物館法改正において、博物館法の目的について、社会教育法に加えて文化芸術基本法の精神に基づくことが定められたほか、博物館は他の博物館等と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことが努力義務とされた。このような中で、博物館がより人々に開かれ、多様な学びが生まれることが期待される。

そこで本研究会では、ボードレス・アートミュージアム NO-MA(以下、NO-MA)を訪ね、展覧会『触の祭典「ユニバーサル・ミュージアム さわる！めぐる物語」』を体験する。本展の特徴は、彫刻や絵画、歴史資料など、会場内にあるすべての作品をさわって体験することである。「さわる」といってもその方法はさまざまであり、寝転がったり、覆われたりするなど全身を使うこともあれば、音を振動で感じ取るものもある。会場はNO-MAと、近江八幡市旧市街に残る町家や蔵等の歴史ある建物の維持保全・再活用を通じた地域の賑わい創出を目指す「まちや倶楽部」の二会場で、旧市街の町並みを歩くことができるほか、展覧会のワークショップなどのイベントも、地元のスワイバザールで行われている(見学会当日にはスワイバザールは開催されていません)。また、滋賀県立美術館においても、ユニバーサル・ミュージアム展の出品作をはじめ、さわることのできる作品等の展示が、企画展『“みかた”の多い美術館展 さわる知る 読む聞くあそぶ はなしあう「うーん」と悩む自分でつくる!』で行われた。

視覚に拘らない鑑賞を提示し、また、地域との連携・協力をすすめる本展について、見学会に続いて研究会として、『ユニバーサル・ミュージアム展』監修者である国立民族学博物館教授 広瀬浩二郎氏、NO-MA 石田瞳氏、滋賀県立美術館 学芸員 山田創氏の3名にご講演をいただく。そして、地域における博物館の今後の可能性について、「ユニバーサル」をキーワードに考えていく。

【講演者 3名】

- ・広瀬 浩二郎 氏(国立民族学博物館 教授): 2021年9月から11月にかけて、国立民族学博物館特別展『ユニバーサル・ミュージアム——さわる!“触”の大博覧会』を担当。「ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組んでいる。
- ・石田 瞳 氏(ボードレス・アートミュージアム NO-MA): 展覧会『触の祭典「ユニバーサル・ミュージアム さわる！めぐる物語」』(2023年10月7日~12月17日)を担当。
- ・山田 創 氏(滋賀県立美術館 学芸員): 企画展『“みかた”の多い美術館展 さわる知る 読む聞くあそぶ はなしあう「うーん」と悩む自分でつくる!』(2023年10月7日~11月19日)を担当。普段はあまり美術館に来ない方に提案してもらった理想の“みかた”の実現に取り組んだ。また、「ユニバーサル・ミュージアム展」の出品作をはじめ、さわることのできる作品の展示のほか、自分で手を動かして「つくる」コーナーを展示室内に展開した。